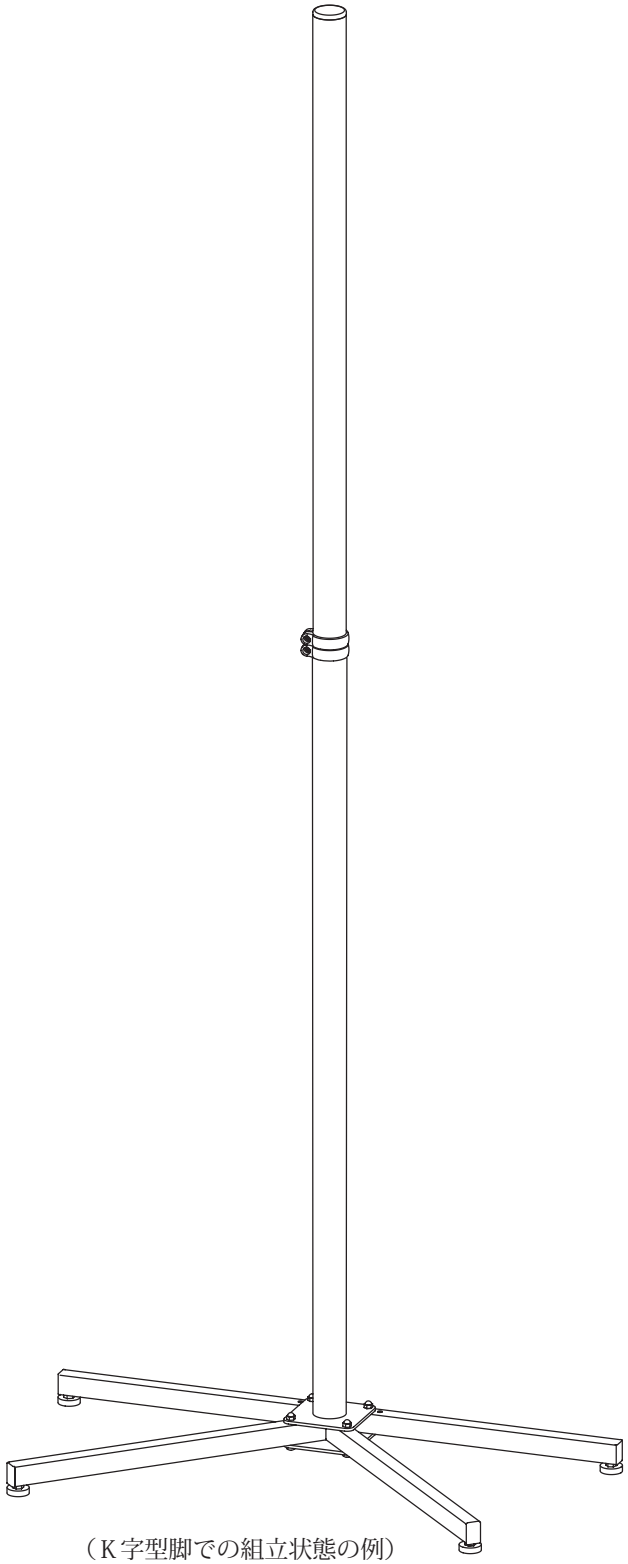
MINOURA 自立式汎用展示台支柱 MPT-200S 取扱説明書

(ver.2.0 2014/8)



（K字型脚での組立状態の例）

MPT-200S とは

●さまざまなオプションアタッチメントを取り付けることで汎用的に使用できる、展示台の基本ベースです。
●脚の組み方を変えることで、壁際に寄せて設置するのに便利なK字型脚や、支柱の前面・背面ともフルに使用できるより安定したX字型脚の２通りに変化させられます。
●支柱は直径 45mm の軽量で丈夫なアルミ製。各種アタッチメントは 45mm 径に合うものを選択してください。

⚠ 注意していただきたいこと

●必ず平坦で水平な床の上に設置し、各脚のアジャスタは正しく調整して４ヶ所の接地点が同時に床に接するようにしてください。
●K字型脚にセットした場合は、転倒による事故を防止するため、できるだけ背面が壁になる場所に設置してください。またオプションの各種アタッチメントは支柱背面には装着しないでください。X脚の場合は一方に極端に集中させない限りは大丈夫です。

お問い合わせ先

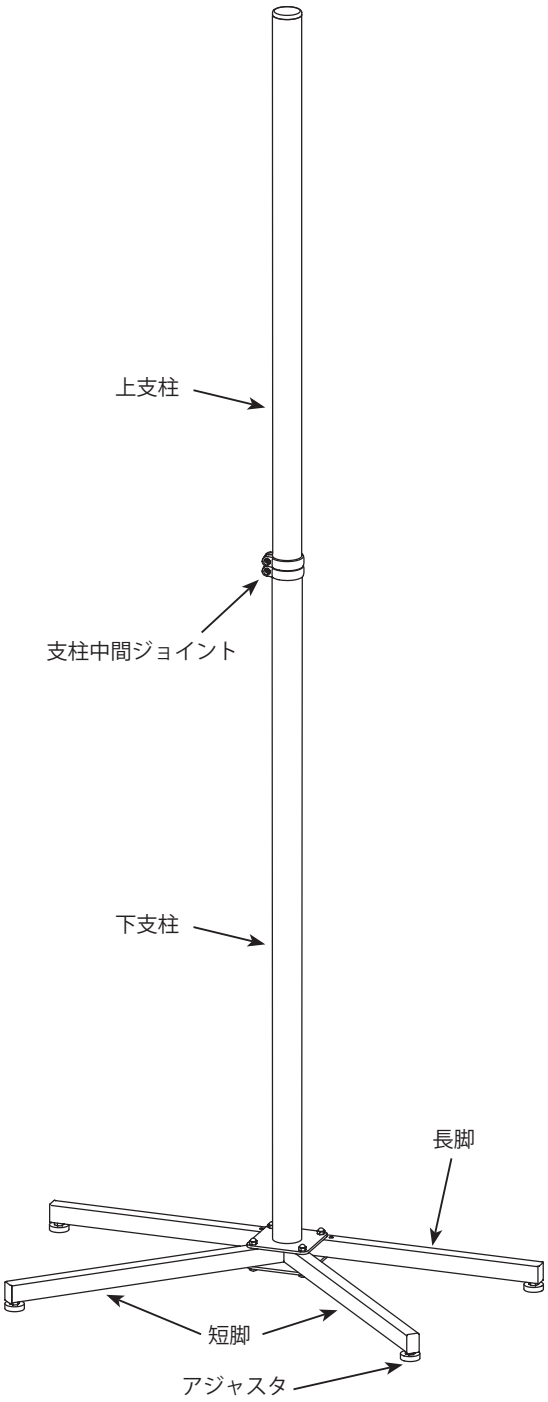
組み立て方や使い方についてのご質問は、まず最初にこの商品を購入したショップにお問い合わせください。もし万一部品欠品などがありましたら弊社カスタマーサービスにまでご連絡ください。

＜販売元＞
株式会社 深谷産業
〒462-0062 名古屋市北区新沼町 150
Phone (052) 909-6201
Fax (052) 909-6212
Web www.fukaya-sangyo.co.jp

＜製造元＞
株式会社 箕浦（営業部／カスタマーサービス）
〒503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1
Phone (0584) 27-3131（営業）／27-3132（サービス）
Fax (0584) 27-7505（営業）／27-4258（サービス）
Email infodesk@minoura.jp（カスタマーサービス）
Web www.minoura.jp

日本製

各部の名称

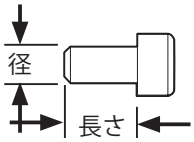


組み立てに必要な工具

M5 六角レンチ（添付）	1 本
プラスドライバ（添付しません）	1 本
13mm スパナ（添付しません）	1 本

（プラスドライバは一般的なの No. 2 よりもひとまわり太い No. 3 の方を推奨します）

ボルトサイズの読み方

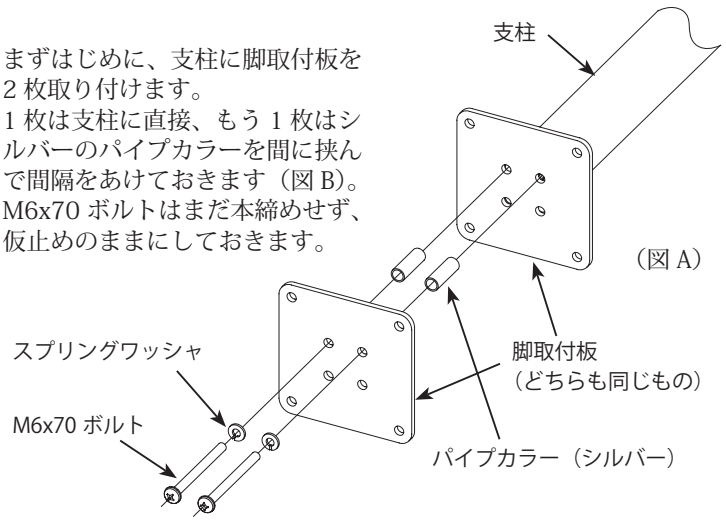


例） M6 x 30
径　長さ

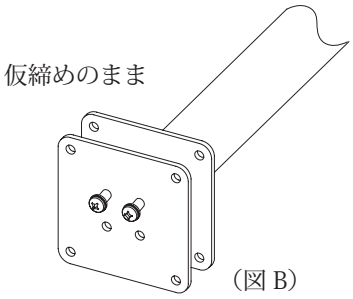
MPT-200S をＫ脚で組み立てる

脚をＫ字型で組み立てると、壁などに寄せて省スペースに設置できるようになる反面、バランス不良による転倒を避けるため自転車など重い物は斜め脚側だけにしか搭載できないなどの制限がされるようになります。

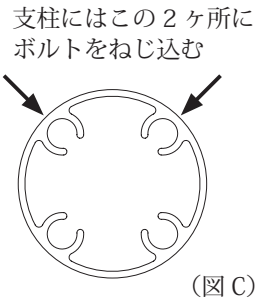
1 まずはじめに、支柱に脚取付板を 2 枚取り付けます。
1 枚は支柱に直接、もう 1 枚はシルバーのパイプカラーを間に挟んで間隔をあけておきます（図 B)。
M6x70 ボルトはまだ本締めせず、仮止めのままにしておきます。



（図 A）

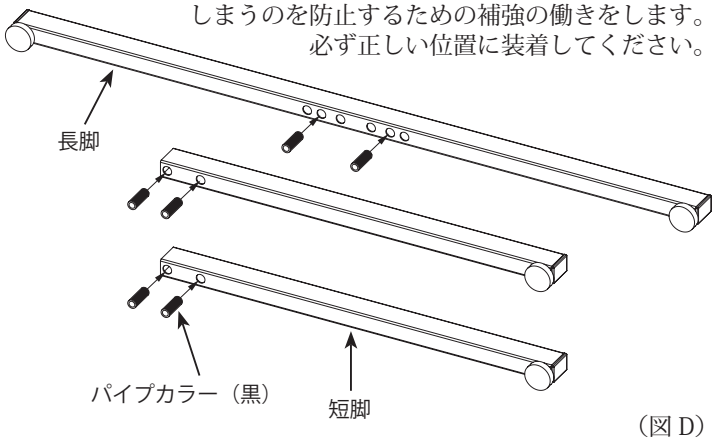


（図 B）



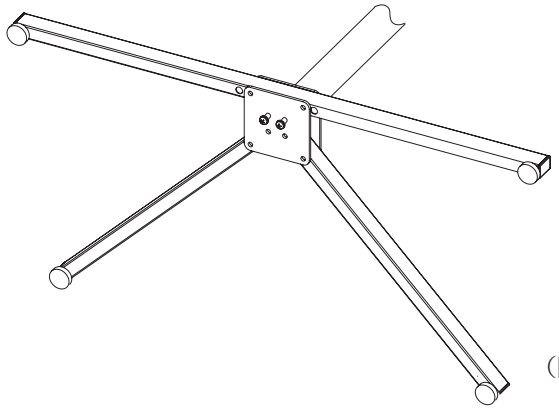
（図 C）

2 長脚・短脚それぞれの下記の位置の孔に黒色のパイプカラーを通します。パイプカラーは大きい方の孔から挿入します。
パイプカラーはボルトを本締めしたときパイプが潰れてしまうのを防止するための補強の働きをします。
必ず正しい位置に装着してください。



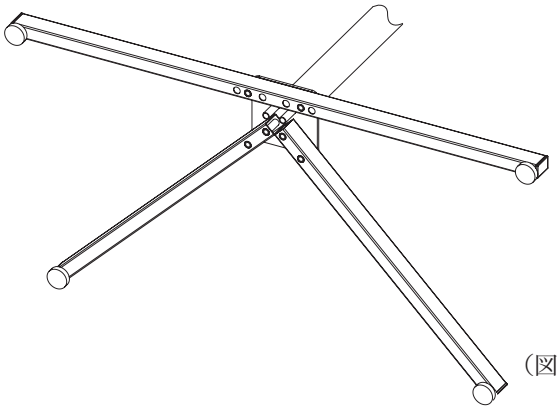
（図 D）

3 図 E のような形に脚を配置します。



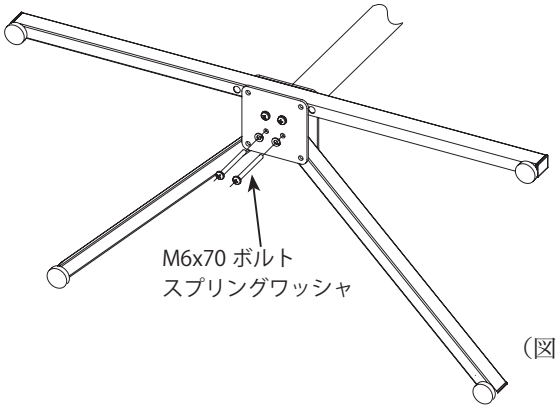
（図 E）

下側の脚取付板を外すと図Ｆのような配置になります。
短脚から取り付けていきますので、長脚は後からでも構いません。



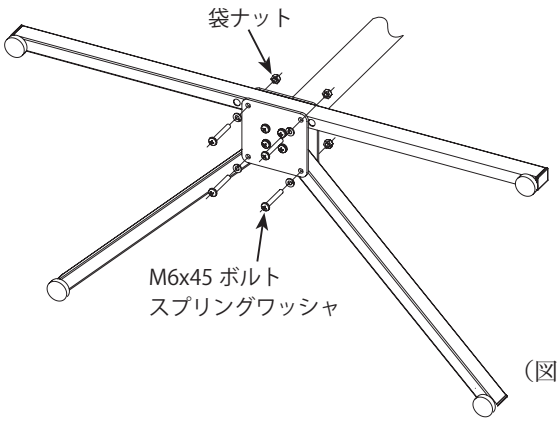
（図Ｆ）

4 短脚の先端の方の孔に長い方のボルト（M6x70）を通し、支柱にねじ込みます。



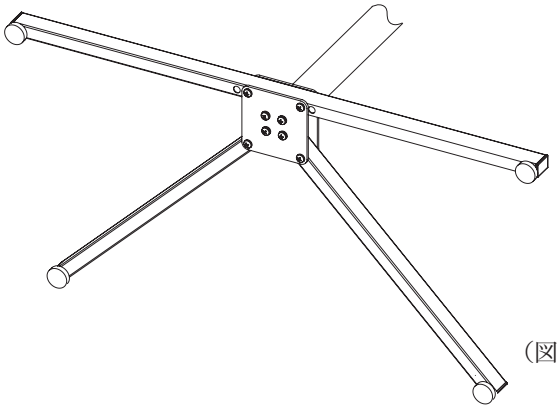
（図Ｇ）

5 脚取付板の四隅の孔には短い方のボルト（M6x45）を通して、短脚・長脚を取り付けていきます。M6x45 ボルトは袋ナットで止めます。



（図Ｈ）

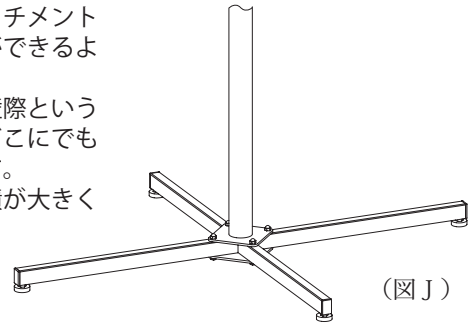
6 すべてのボルトを締め込んでおきます。支柱に直接ねじ込まれているボルトはあまり強く締め込みすぎるとネジ山が壊れてしまいます。適度に加減してください。



（図Ｉ）

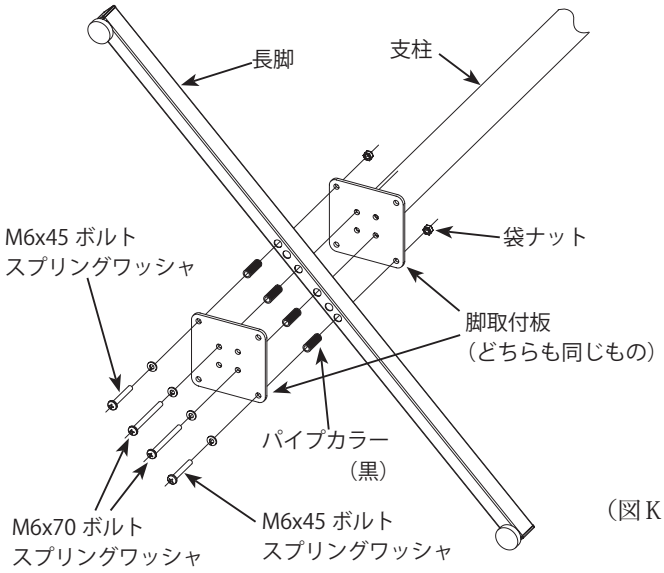
MPT-200S をＸ脚で組み立てる

脚をＸ字型で組み立てると全方向への脚の踏ん張りが効くようになるため、支柱の前面にも背面にも別売アタッチメントを取り付けることができるようになります。
またＫ脚のように壁際という制限がなくなり、どこにでも自由に配置できます。
その反面、設置面積が大きくなります。



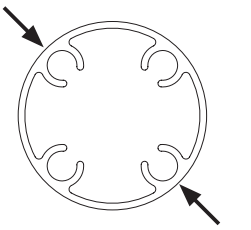
（図Ｊ）

1 まず長脚の下記の位置の孔に黒色のパイプカラー 4 本を通し、2 枚の脚取付板で挟んでから支柱に取り付けます。



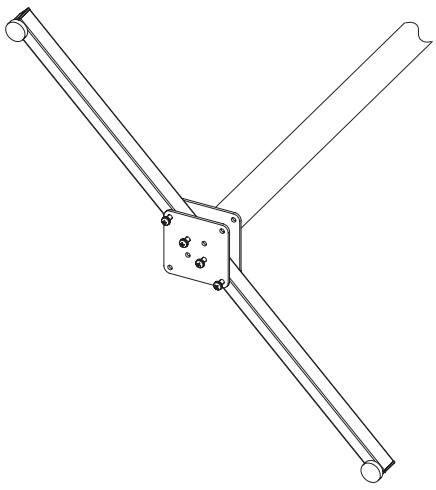
（図Ｋ）

中央 2 本の支柱に直接ねじ込む方には長い方のボルト（M6x70）を使用します。
外側の 2 本は短い方のボルト（M6x45）を使用し、袋ナットで取り付けます。
いずれのボルトもまだ完全には締め付けず、仮止めのままにしておきます。



支柱にはこの 2 ヶ所にボルトをねじ込む

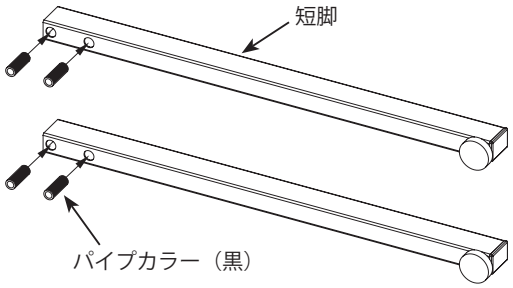
（図Ｌ）



（図Ｍ）

すべてのボルトを取り付け終わると、このような形になります。

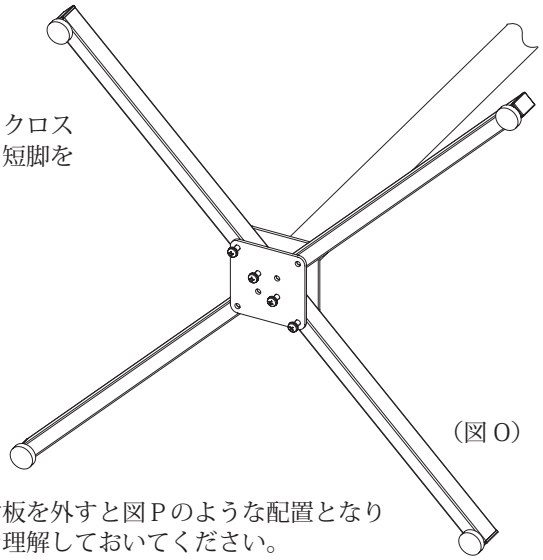
2 短脚は、それぞれ２ヶ所の孔に黒いパイプカラーを通しておきます。パイプカラーは大きい方の孔から挿入します。



（図N）

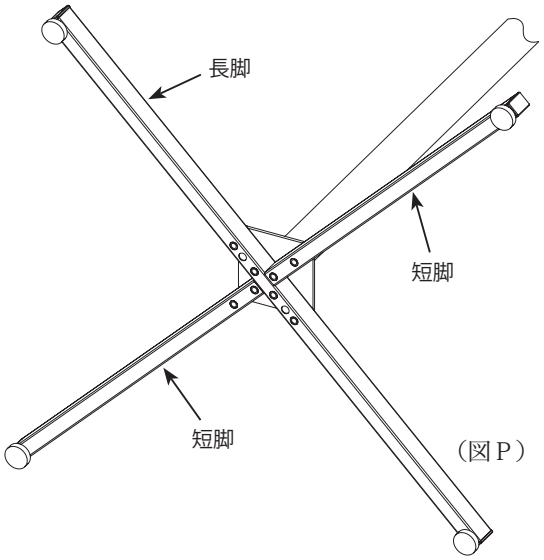
3

長脚に対してクロスになるように短脚を配置します。



（図 O）

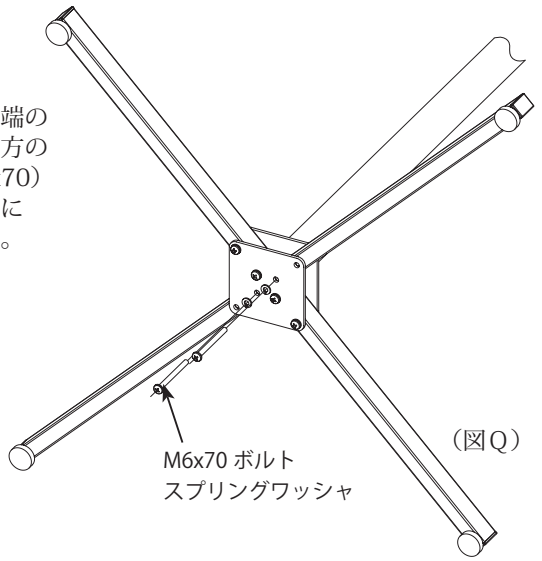
下側の脚取付板を外すと図Ｐのような配置となります。構造を理解しておいてください。



（図Ｐ）

4

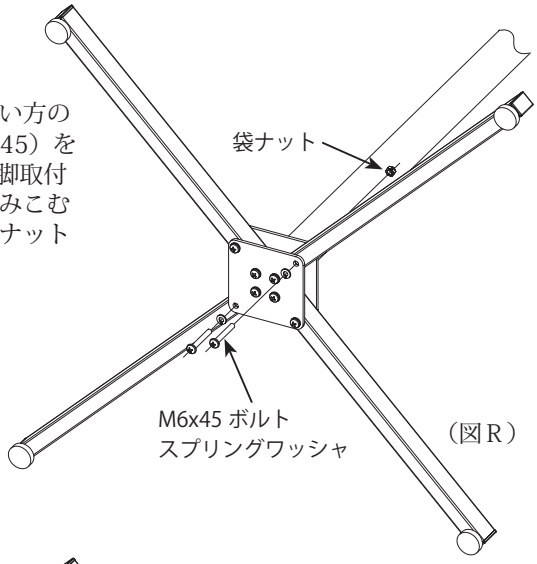
まず短脚の先端の方の孔に長い方のボルト（M6x70）を通し、支柱にねじ込みます。



（図Q）

5

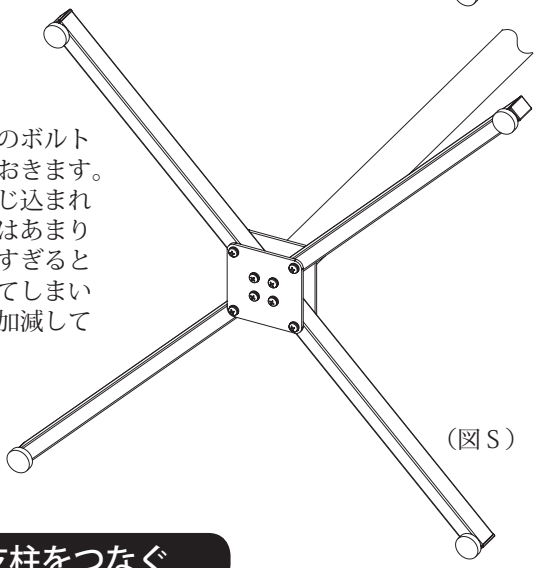
残った孔に短い方のボルト（M6x45）を通し、２枚の脚取付板で短脚を挟みこむようにして袋ナットで止めます。



（図Ｒ）

6

最後にすべてのボルトを締め込んでおきます。支柱に直接ねじ込まれているボルトはあまり強く締め込みすぎるとネジ山が壊れてしまいます。適度に加減してください。



（図Ｓ）

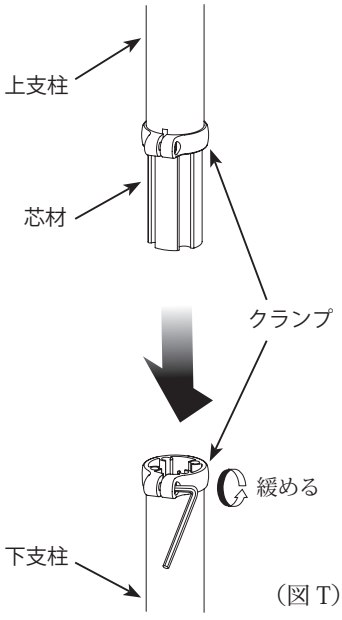
上下支柱をつなぐ

MPT-200S では支柱は上下２本に分かれています。
支柱は上下とも同じ太さで、芯材を間に挟んでつなぐ方式で組み立てます。
上支柱にはあらかじめ芯材が取り付けてあります。それを下支柱に挿入してクランプバンドを締め付けて固定するという方式です。

1 まず下支柱側のクランプをM5 六角レンチで緩めておきます。

2 上支柱に取り付けてある芯材を下支柱に挿入します。

3 上支柱を下支柱にしっかりと密着させたまま、クランプを３N.m で締め付けて固定します。



（図 T）

⚠

上下支柱の間に隙間があると強度不足となり、自転車を掛けた荷重で支柱が折れてしまう恐れがあります。必ず密着させてください。